

水稲病虫害防除対策（5・6月）

令和8年5月8日
福島県病虫害防除所

1 いもち病（葉いもち）

- (1) 令和7年のいもち病（葉いもち）の発生は、全域で平年より少なくなりました。
- (2) 補植用置苗は、葉いもちの伝染源になりやすいので、補植を終えたら速やかに撤去し、水田外に処分してください。
- (3) 葉いもち予防のために水面施用剤を施用する場合は、各薬剤の施用適期に遅れないよう注意してください。なお、平年の本田での葉いもち初発時期は、7月上旬です。
- (4) BLASTAM（ブラスタム）は、気温や降雨等の気象条件からイネがいもち病に感染しやすい感染好適条件であったかどうかを判定し、葉いもちの発生を予測するシステムです。感染好適条件が広範囲かつ断続的に出現した場合、その7～10日後に葉いもちが発生するおそれがありますので、水田内に入って病斑が多数みられた場合には、薬剤による防除を行ってください。なお、病虫害防除所ホームページ（URL:<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/blastam-2026.html>）では、6月から8月までBLASTAMによる感染好適条件の出現状況を提供していますので、防除の参考にしてください。
- (5) 薬剤防除の実施に当たっては、以下のことに注意してください。
 - ア 耐性菌の出現を防ぐため、同じ系統の薬剤の連用はさけてください。特に、Q o I 剤（FRACコード：11）については、県内でも耐性菌の発生が確認されていますので、1作につき1回までの使用としてください。
 - イ 水面施用剤を使用する場合は、湛水状態にして所定量を均一に施用後、7日間以上止水状態を保ち、落水や掛け流しは行わないでください。
 - ウ コラトップジャンボPは、藻や浮草で拡散が阻害される場合には、使用しないでください。
 - エ アミスターエイトは、リンゴの一部品種に葉害を発生させるため、リンゴにかからないよう注意してください。

表1 葉いもちの防除薬剤（散布剤）

薬 剤 名	有 効 成 分 名	FRAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、 10a 当たり使用量	本剤の 使用回数	使用 方法
アミスターエイト	アゾキシストロビン	11	収穫14日前まで	1,000～1,500倍	3回以内	散布
カスミン液剤	カスガマイシン	24	穂揃期まで	1,000倍	2回以内	散布
ノンブラス粉剤DL	トリシクラゾール	16.1	収穫7日前まで	3～4kg	2回以内	散布
	フェリムゾン	U14				
ノンブラスフロアブル	トリシクラゾール	16.1	収穫7日前まで	1,000倍	2回以内	散布
	フェリムゾン	U14				
フジワン乳剤	イソプロチオラン	6	収穫14日前まで	1,000倍	2回以内	散布
ブラシン粉剤DL	フェリムゾン	U14	収穫7日前まで	3～4kg	2回以内	散布
	フサライド	16.1				
ブラシンフロアブル	フェリムゾン	U14	収穫7日前まで	1,000倍	2回以内	散布
	フサライド	16.1				

注) 液剤、乳剤、フロアブル剤は10a当たり140～150L散布する。

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

表2 葉いもちの防除薬剤（水面施用剤）

薬剤名	有効成分名	FRAC コード	使用時期 (収穫前日数)	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
ルーチン粒剤	イソチアニル	P 3	移植直後～葉いもち 初発3日前まで (収穫30日前まで)	1 kg	2回以内	湛水散布
フジワン粒剤	イソプロチオラン	6	葉いもち初発10～ 7日前まで (収穫30日前まで)	3～5 kg	2回以内	湛水散布
オリゼメート粒剤	プロベナゾール	P 2	葉いもち初発10日前 ～初発時まで (収穫14日前まで)	3～4 kg	2回以内	散布
コラトップ粒剤5	ピロキロン	16.1	葉いもち初発10日前 ～初発時まで	3～4 kg	2回以内	散布
コラトップ 1キロ粒剤12	ピロキロン	16.1	葉いもち初発10日前 ～初発時まで	1～1.5kg	2回以内	散布
コラトップジャンボP	ピロキロン	16.1	葉いもち初発20日前 ～初発時まで	小包装（パック） 10～13個 (500～650g)	2回以内	水田に小包装 (パック) のまま 投げ入れる。

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

表3 葉いもちの防除薬剤（無人航空機による散布）

薬剤名	有効成分名	FRAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、 10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
アミスターエイト	アズキシストロビン	11	収穫14日前まで	8倍 0.8L	3回以内	無人航空機に よる散布
フジワン乳剤	イソプロチオラン	6	収穫14日前まで	8倍 0.8L	2回以内	無人航空機に よる散布
ブラシンフロアブル	フェリムゾン	U14	収穫7日前まで	8倍 0.8L	2回以内	無人航空機に よる散布
	フサライド	16.1				
オリゼメート粒剤20	プロベナゾール	P 2	収穫14日前まで	1 kg	2回以内	無人航空機に よる散布
コラトップ 1キロ粒剤12	ピロキロン	16.1	葉いもち初発10日前～ 初発時まで	1 kg	2回以内	無人航空機に よる散布
ノンブラスバリダ フロアブル	トリシクラゾール	16.1	収穫14日前まで	8倍 0.8L	2回以内	無人ヘリコプター による散布
	バリダマイシン	U18				
	フェリムゾン	U14				

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

2 イネミズゾウムシ

- (1) 令和7年のイネミズゾウムシの発生は、全域で平年より多くなりました。近年、発生が増加傾向にあるため注意が必要です。
- (2) 気温が高い日が続くと成虫の本田への侵入時期が早まります。田植時期と侵入最盛期が近いと被害が大きくなりやすいため注意してください。なお、有効積算温度から推定した侵入最盛期、防除適期は、ともに平年より早くなっています。
- (3) 移植後10日頃に100株当たり成虫が40頭以上のほ場では、薬剤による防除を行ってください。特に直播栽培では、出芽直後から被害を受けやすいため注意してください。
- (4) 水面施用剤を使用する場合は、湛水状態にして所定量を均一に施用後、7日間以上止水状態を保ち、落水や掛け流しは行わないでください。
- (5) なげこみトレボンは、5葉期以降に使用し、稲が小さいときは水深2～4cmのやや浅水、盛んに分けつを始めたなら水深5cm以上としてください。

表4 イネミズゾウムシの本田防除薬剤

薬剤名	有効成分名	IRACコード	防除時期 (収穫前日数)	10a 当たり使用量	本剤の使用回数	使用方法
トレボン粒剤	エトフェンプロックス	3A	5月下旬～6月上旬 (収穫21日前まで)	2～3kg	3回以内	散布
なげこみトレボン	エトフェンプロックス	3A	5月下旬～6月上旬 (5葉期以降(但し、 収穫21日前まで))	水溶性容器4～6個 (200～300ml)	3回以内	水田に水溶性容器のまま 投げ入れる。

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

3 イネヒメハモグリバエ

- (1) 近年の発生状況は、少なく推移していますが、田植後に低温が続く場合や深水管理、直播栽培のほ場では、被害が発生しやすいため注意してください。
- (2) 発生が目立つ場合は、初発時に本田防除を行ってください。水面施用剤を使用する場合は、湛水状態にして所定量を均一に施用後、7日間以上止水状態を保ち、落水や掛け流しは行わないでください。

表5 イネヒメハモグリバエの本田防除薬剤

薬剤名	有効成分名	IRACコード	防除時期 (収穫前日数)	10a 当たり使用量	本剤の使用回数	使用方法
トレボン粒剤	エトフェンプロックス	3A	5月中旬～6月上旬 (収穫21日前まで)	2～3kg	3回以内	散布

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

4 イネドロオイムシ

- (1) 令和7年のイネドロオイムシの発生は、全域で平年より多くなりました。感受性検定の結果、中通りの一部では、チアメトキサム剤に対する感受性低下が確認されています。
- (2) 有効積算温度から推定した成虫の本田への侵入盛期、防除適期である幼虫のふ化盛期は、ともに平年並となっています。
- (3) 1株当たり3～4齢幼虫(ドロの大きさが4～5mm)が10頭以上のほ場では、薬剤による防除を行ってください。水面施用剤を使用する場合は、湛水状態にして所定量を均一に施用後、7日間以上止水状態を保ち、落水や掛け流しは行わないでください。
- (5) なげこみトレボンは、5葉期以降に使用し、稲が小さいときは水深2～4cmのやや浅水、盛んに分けつを始めたなら水深5cm以上としてください。

表6 イネドロオイムシの本田防除薬剤

薬剤名	有効成分名	IRACコード	防除時期 (収穫前日数)	10a 当たり使用量	本剤の使用回数	使用方法
スミチオン粉剤3DL	M E P	1B	6月上旬～6月中旬 (収穫21日前まで)	3～4kg	2回以内 (但し、 出穂前は 1回)	散布
なげこみトレボン	エトフェンプロックス	3A	6月上旬～6月中旬 (5葉期以降(但し、 収穫21日前まで))	水溶性容器 4～6個 (200～ 300ml)	3回以内	水田に水溶性容器のまま 投げ入れる。

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

5 ニカメイチュウ（第1世代）

- (1) イネの刈り株や稈の中で幼虫の状態で越冬します。成虫は、5月頃から水田に飛来し葉身の中に産卵し、ふ化した幼虫が6月中旬頃から葉鞘に侵入します。被害を受けた葉鞘は褐変するので、例年被害が目立つほ場では、薬剤による防除を行ってください。
- (2) 薬剤を散布する場合は、越冬世代成虫の発蛾最盛期（福島市大笹生で例年5月6半旬）の10～15日後に株元によく付着するように散布してください。水面施用剤を使用する場合は、湛水状態にして所定量を均一に施用後、7日間以上止水状態を保ち、落水や掛け流しは行わないでください。

表7 ニカメイチュウ（第1世代）の本田防除薬剤

薬剤名	有効成分名	IRAC コード	防除時期 (収穫前日数)	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数	使用 方法
スミチオン乳剤	M E P	1 B	6月上旬～中旬 (収穫21日前まで)	1,000～2,000倍	2回以内	散布
スミチオン粉剤3DL	M E P	1 B	6月上旬～中旬 (収穫21日前まで)	3～4kg	2回以内 (但し、 出穂前は 1回)	散布
パダン粒剤4	カルタップ	14	6月上旬～中旬 (収穫30日前まで)	3～4kg	6回以内	散布

注) 乳剤は10a当たり140～150L散布する。

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

6 イナゴ類

- (1) 年1回の発生で、6月上旬からふ化幼虫が確認されます。若齢幼虫は主に畦畔雑草で生活し、生育が進むにつれて水田内に侵入をはじめ、7月下旬以降水田内への侵入が増加します。
- (2) 例年発生が多いほ場では、水田内への侵入が増加する前のふ化終期（6月中旬～7月上旬）に薬剤による防除を行ってください。なお、この時期は、ふ化幼虫が畦畔近くにとどまっている場合が多いため、畦畔の付近を中心に薬剤を散布してください。水面施用剤を使用する場合は、湛水状態にして所定量を均一に施用後、7日間以上止水状態を保ち、落水や掛け流しは行わないでください。

表8 イナゴ類の本田防除薬剤

薬剤名	有効成分名	IRAC コード	防除時期 (収穫前日数)	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数	使用 方法
アルパリン粉剤DL スタークル粉剤DL	ジノテフラン	4 A	6月中旬～7月上旬 (収穫7日前まで)	3kg	3回以内	散布
トレボン粒剤	エトフェンプロックス	3 A	6月中旬～7月上旬 (収穫21日前まで)	2～3kg	3回以内	散布

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

●情報内容への質問は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727

◆農薬を使用する際は、ラベルをよく読んで正しく使用しましょう。

◆無人航空機で農薬を散布する場合、散布前に養蜂飼育情報の確認、散布計画の周知を行きましょう。

※農薬の登録内容については慎重に校閲していますが、登録内容の変更は随時行われています。また、同じ農薬名でも農薬会社によって登録内容が異なることがありますので、農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>) 等で最新の登録内容を確認してください。（記載中の登録内容は令和8年4月22日現在）